



安積山

郡山市立日和田小学校

学校便り No.20

令和3年6月18日

文責：校長 伊藤孝行

不審者対応避難訓練について

15日の業間の時間に、不審者が学校近くに現れたという想定で避難訓練を行いました。

今回は、「予告なし」「休み時間」「近くに先生がいない」という状況の中で、子どもたちがどう行動できるかを見るものでした。



子どもたちは普段と違うチャイムの鳴り方すぐに気づき校舎へと避難を始めました。緊急チャイム⇒避難はよかったのですが、課題としては、チャイムの後の放送をきちんと聞いた子どもが少なかったことでした。

今後もあらゆる場面を想定して、子どもたちが正しく判断し、適切な行動がとれるよう指導を重ねていきます。

子どもの嘘(うそ)を考えてみましょう。

人は大小様々な嘘について、自分を守ったり相手を傷つけないようにしたりしています。

例えば、「今度の日曜日遊びに行かない？」と誘われた時、何となく気が進まないときがあります。

その時、「気が進まないから行かない。」と答える人はあまりおらず、「ちょっと用事があるからごめんなさい。」という嘘をつく人の方が多いのではないのでしょうか。これは、相手の気持ちを思った嘘です。この嘘は責められるのでしょうか？



少し前置きが長くなりました。では、子どもの嘘について、いくつかのパターンをもとに考えていきたいと思います。

【パターンA】

「このゲームは、みんな持っていて、持っていないのはぼくだけなんだよ。」

これは本当によくある子どもの嘘です。見抜くのは簡単です。「あなたが言うみんなって誰、A君、Bさん、Cちゃん、・・・」と問い詰めれば、たいていは「ごめんなさい」となります。

【パターンB】

「下敷きなくしちゃったから、新しいの買って」「なくしたから買って」と子どもが言ったとき、気を付けることは大きく三つあります。注意してどれに当てはまるのか考えてから対応しましょう。

① 本当になくした場合

身の回りの整理整頓が苦手な子どもは、よくものをなくします。この場合は、整理整頓の大切さを教え、なくさない方法を一緒に考えてみるのが良い解決法だと思います。

② 自分で遊んでいて壊した場合

この場合は、勉強に使う下敷きを別の目的で使って壊してしまったので、本当のことは言いにくいものがあります。そこで、「壊した」と「なくした」を天秤にかけ、叱られたときにダメージが少ないと思う「なくした」を選び嘘をつくことになります。これも大体はばれてしまいます。叱られるダメージは正直に話すと小さくなることを教えてあげてください。

③ 誰かにとられた、または壊された場合

この場合、子どもが嘘をつくのは、自分の置かれている状況を親に知られたくない場合と、親に心配をかけたくないという気持ちをもっているときです。子どもの持ち物や言動をよく観察し、言葉の裏にある子どもの「困り感」を探ることで問題の本質にたどり着きます。

「なくした」ということが頻繁に起こることは心配で「いじめ」も考えなければなりません。

心配なことがありましたらすぐに担任や学校までお知らせください。